

進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

本学では、高校生が看護職への理解を深め、看護職を生涯の職業とする意志を固めたうえで看護の道を選択できるよう、看護職キャリアデザイン講座を中心とした高大接続事業に取り組んできました。本学が実施している看護職キャリアデザイン講座や高校生のためのオープンクラス（授業公開）などの高大接続の取組は、高校生へのキャリア形成支援という目的に加え、高校生が抱く進路への迷いや不安要素の解消とミスマッチの防止、そして、高校生の進路に強い影響を与えるといわれている高校教員や保護者にも看護職への理解を促し、進路選択の際のミスリードの防止にもつながっている。

本事業の実施にあたっては、県教育委員会及び県内高校との連携が不可欠であり、県教育委員会及び県内高校とは、これまで、意見交換会等のさまざまな機会を通じて本学の高大接続の取組について説明を行い、意見や要望をできる限り受け入れながら参加者にとってより良いものになるよう改善を重ねてきた。また、本学の高大接続事業への参加状況やアンケート結果等をフィードバックし、情報共有を行っている。その結果、本事業に対する高校側の理解も深まり、より一層連携が強化された。

さらに、本事業を推進していくなかで、県教育委員会や高校との連携（入口）だけでなく、本学学生にとっての卒業後の進路（出口）となる医療機関等との連携も強化された。看護職キャリアデザイン講座「一日みかんだい生」では、県内医療機関に勤める現役の看護職者を講師に招いて、高校生が自身の将来像を描くうえでのロールモデルを提示している。また、推薦入試による入学予定者と保護者を対象に実施している「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」では、本学が連携協力協定を締結している医療機関のほか、臨地実習施設等県内の主要な医療機関に、病院紹介や個別相談への対応をお願いしている。これらの取組は、自身の看護職者としての将来像を明確にイメージする機会となるとともに、看護職者としての職業観の形成や入学後の学修のモチベーション向上にもつながっている。

② 事業の実施体制

学内の実施体制については、事業推進責任者であるメディアコミュニケーションセンター長の傘下にある高校生キャリアデザイン講座実施ワーキンググループ、学生募集ワーキンググループ、広報ワーキンググループと事務局専任職員が中心となって高大接続事業を実施した。また、本事業は、学生募集から入試、カリキュラム、卒後教育に至るまで幅広い取組となるので、メディアコミュニケーションセンター長をリーダーに、教務委員会、入試委員会、FD委員会の他、地域貢献を担当する地域交流センター委員会の各代表者で構成する学長直轄の高大接続プロジェクトチーム会議により評価指標の適切性の判断や達成状況等事業の進捗状況の評価を行った。

③ 事業の実実施計画・継続性

年度ごとの事業計画と数値目標に基づき、学内の高大接続事業実施組織により進捗管理を行い、それぞれの取組終了後には振り返りと次年度の実施に向けた検討を行っている。また、年度末には外部評価委員による評価を受けることで、事業の改善、推進につなげることができている。

④ 事業成果の普及

学内外への波及効果については、会議等における事例報告や本学ホームページによる情報発信等とともに、平成30年度は本学のAP事業の紹介とこれまでの取組の成果をまとめた報告書を作成し、高等学校や看護系大学に発信することで、本事業の成果を目に見える形で広く伝えた。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

本学が取り組んでいる事業「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム」は、地域のニーズに応じた地域の保健医療を支える質の高い看護職者を育成するため、看護職者としての適性があり、自らの意志で看護職を志望する学生を確保する入口対策と、高度な看護知識と確かな技術を身につけさせるだけでなく、看護職者としてのアイデンティティを育み将来にわたり働き続けることのできる看護職者を輩出する出口（卒業）に至るまでの取組である。

本取組による本学の教育改革として、看護学への関心と動機づけを持った学生を迎えるための入試改革を実施し、平成30年度から新たな推薦入試を導入している。指定校推薦においては出願資格・要件に本プログラムへの参加を項目に加え、三重県の保健医療を支える看護職の育成を目指している。

さらに、平成29年度から事務局組織体制の改革を行い、入学前の取組と入学後の学修状況を連動させてフォローアップするために、高大接続と入試業務を同一の課で遂行することとした。